



会長就任にあたって -ニューノーマル時代の電子情報通信学会-

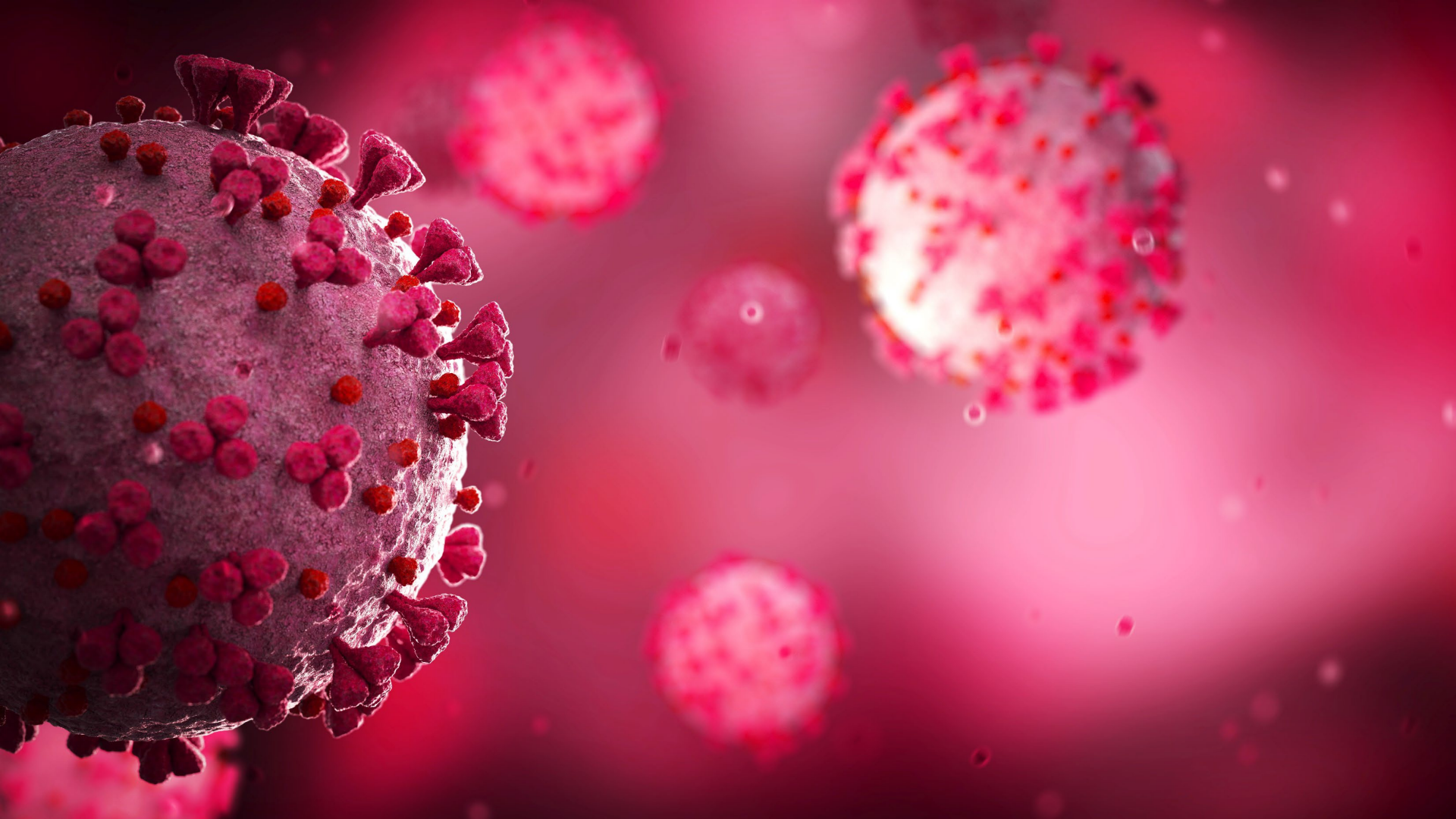
2022年6月9日

川添 雄彦

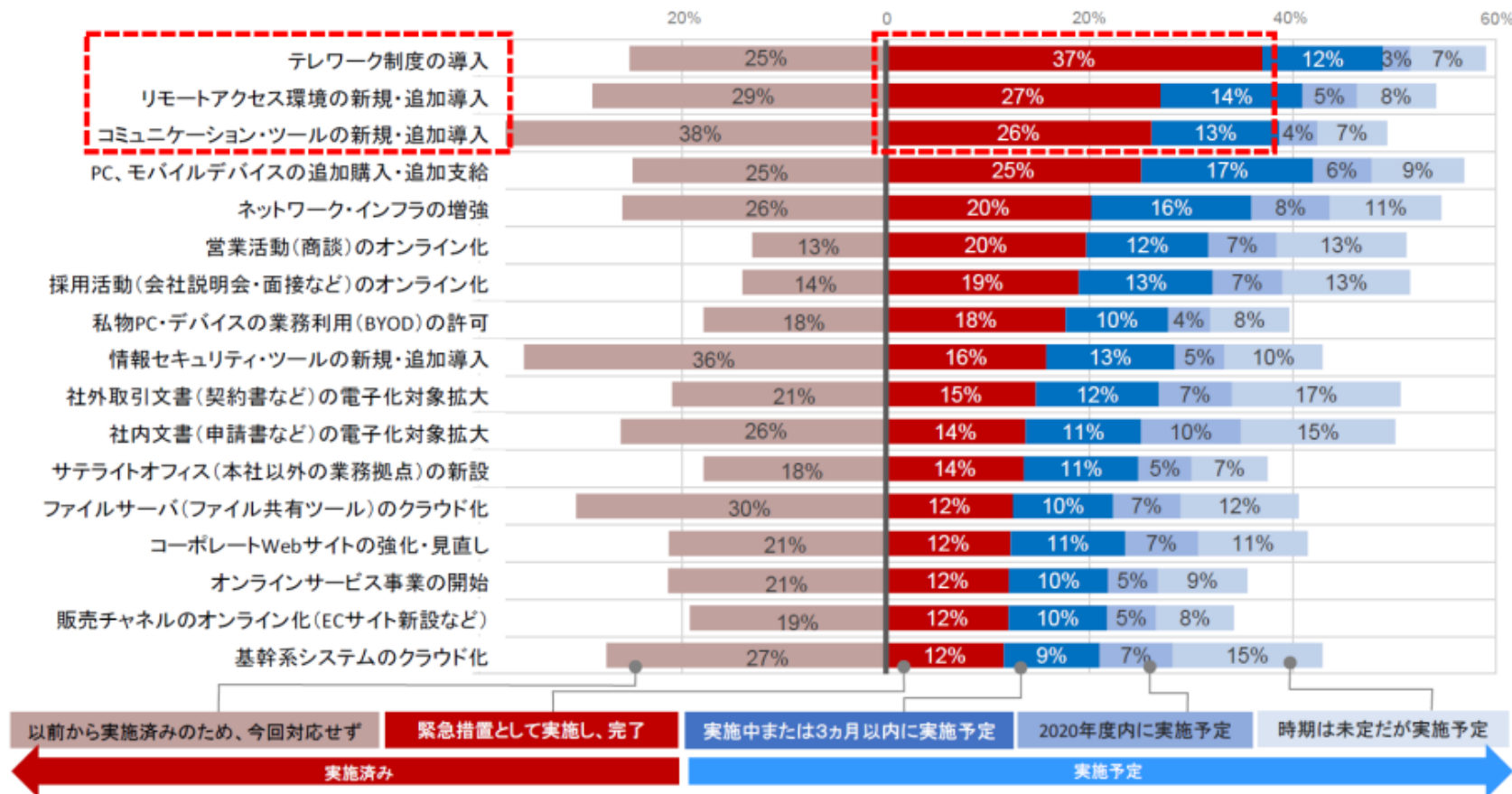


ICT

AI x IoT x 5G



COVID-19により導入されたICT施策(2020.4) EIC

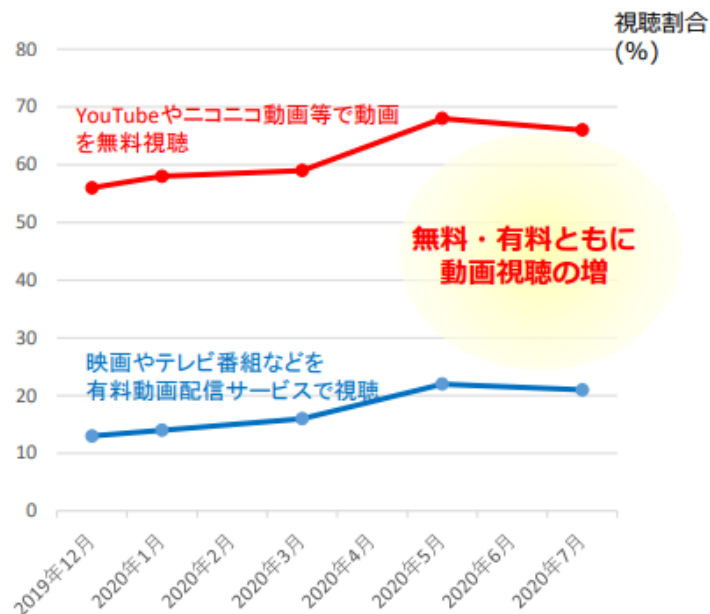


出典: ITR「コロナ禍の企業IT動向に関する影響調査」

Copyright 2022 一般社団法人 電子情報通信学会

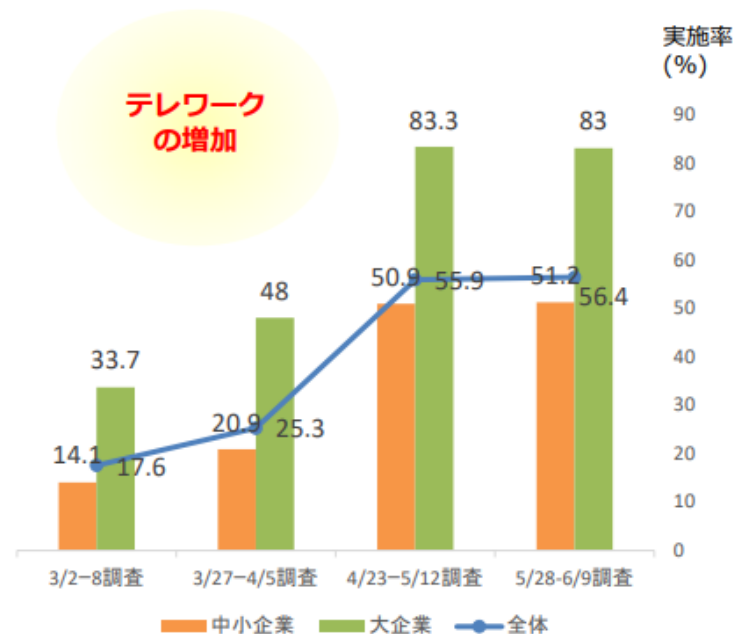
生活スタイルの変化を支えたICT

動画視聴の増加



(出典)野村総合研究所『新型コロナウイルス感染拡大による影響調査』(2020年7月)より総務省修正

テレワークの増加



(出典) 株式会社東京商工リサーチ「第2～6回新型コロナウイルスに関するアンケート調査」



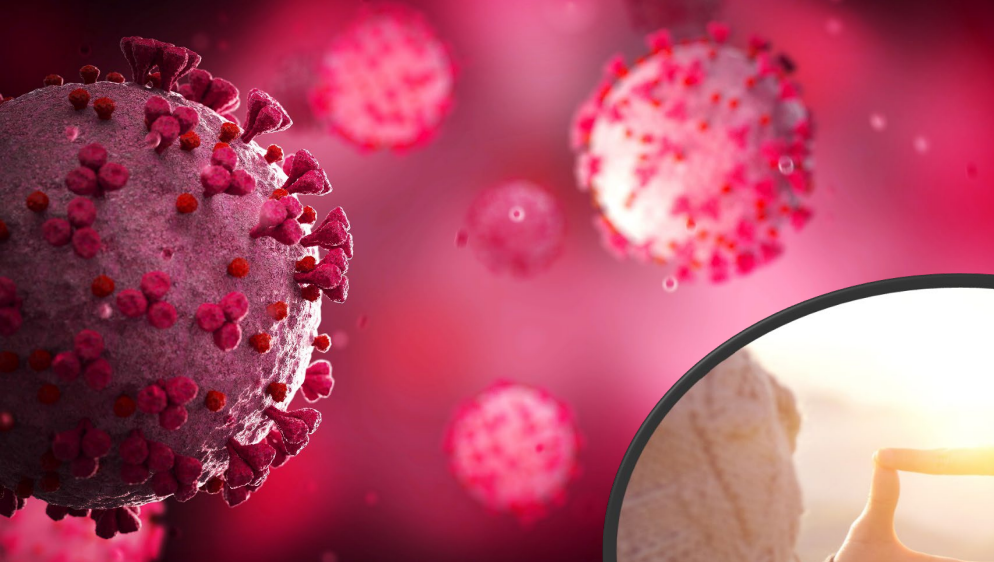
通信により真実を個人が発信



通信を介した支援の和



通信による教育の継続



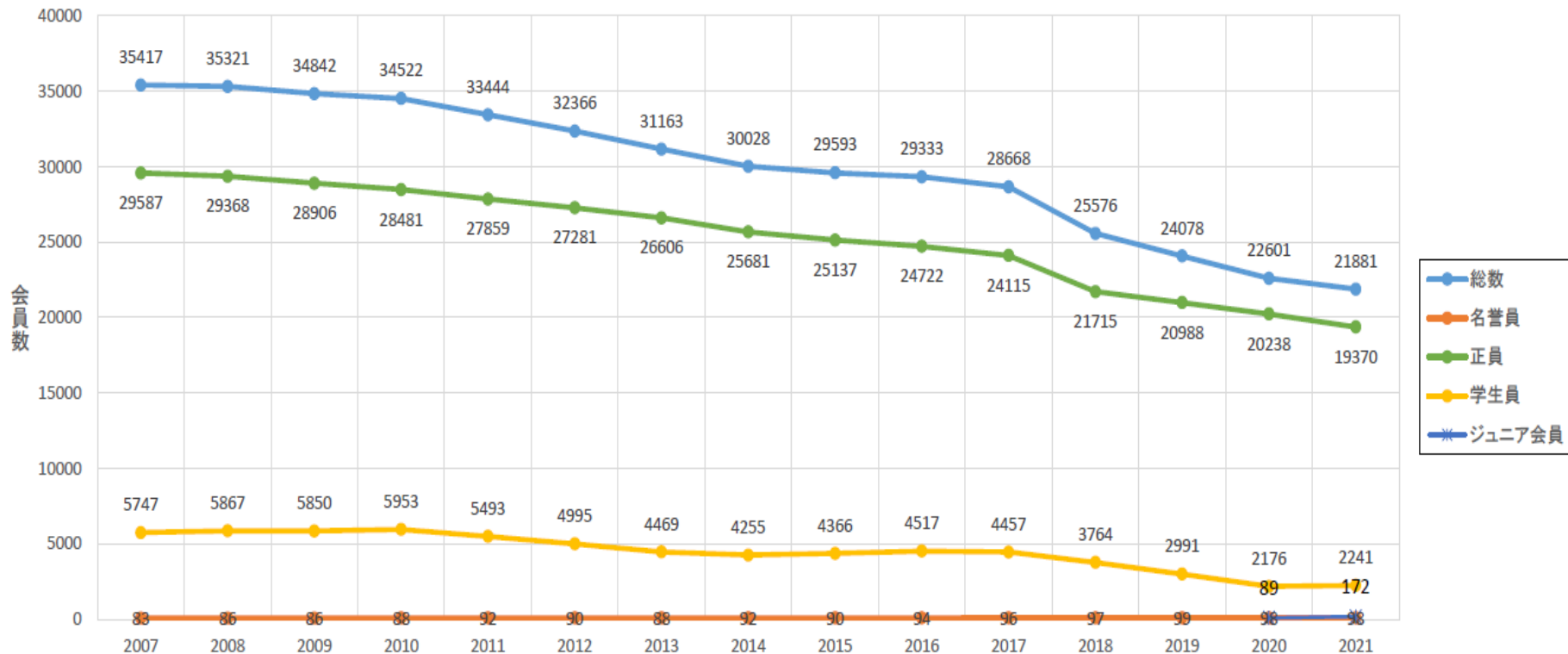


A top-down view of a group of people of various ethnicities and ages stacking their hands in a circle. The hands are of different skin tones, and the sleeves show various patterns and colors like plaid, stripes, and solid colors. The text "学術成果によって限界を打破" is overlaid in the center in a bold, blue-outlined font.

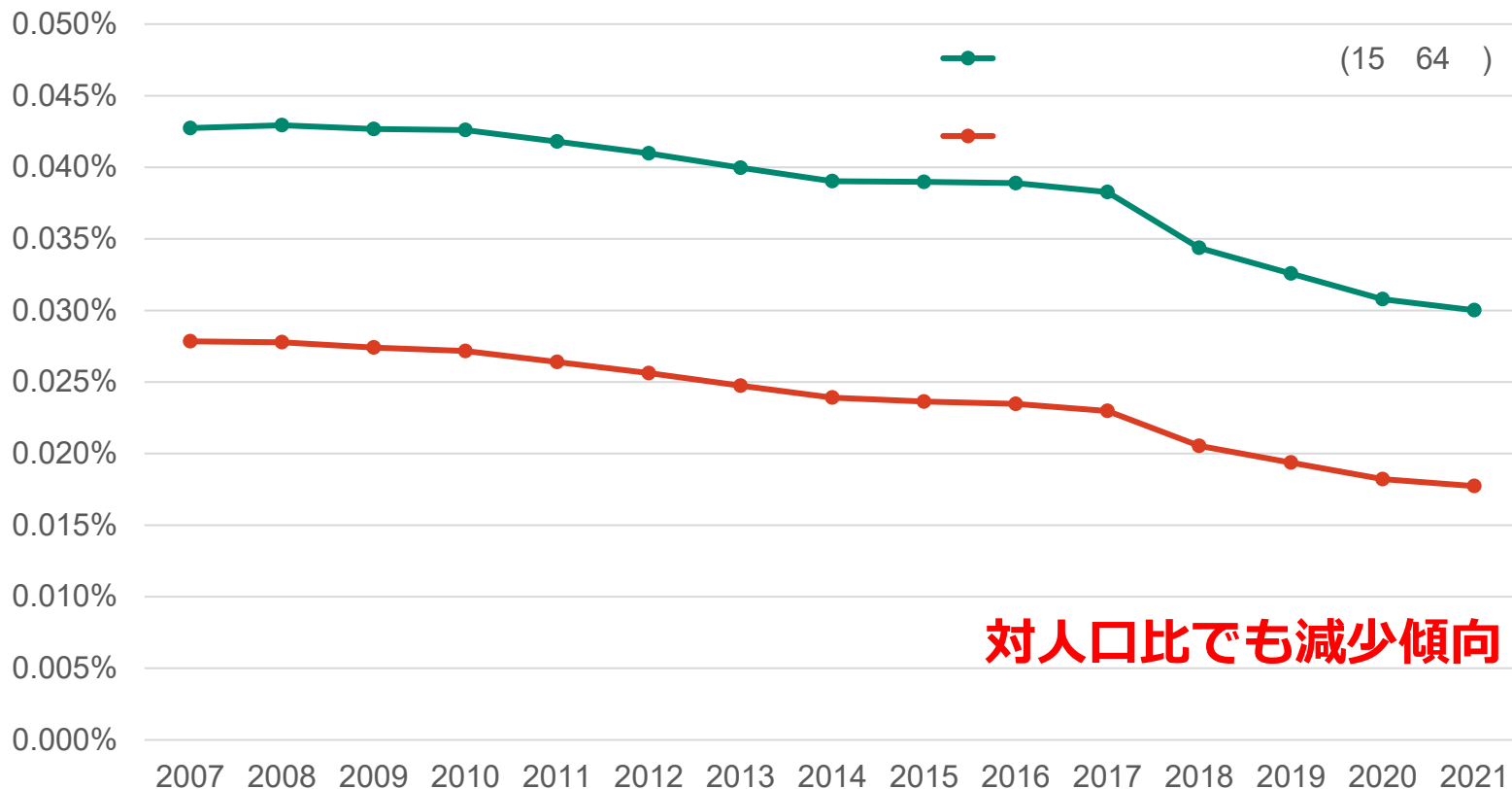
学術成果によって限界を打破

電子情報通信学会を取り巻く状況

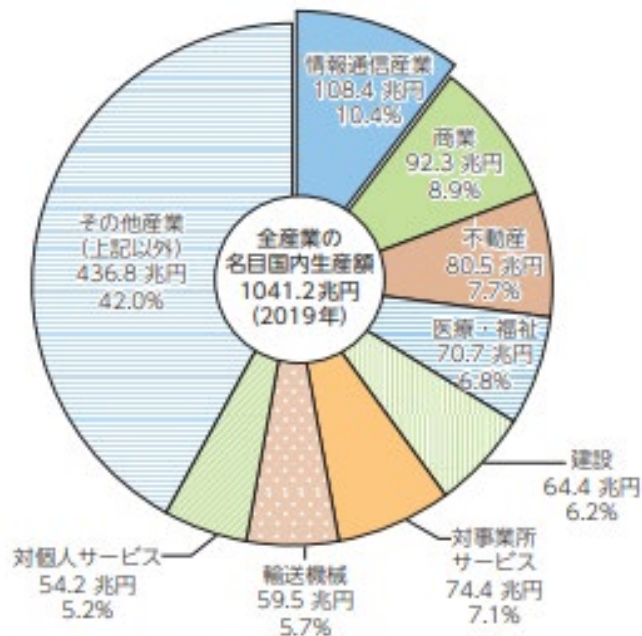
会員数の推移



会員数の推移（人口に対する比率）

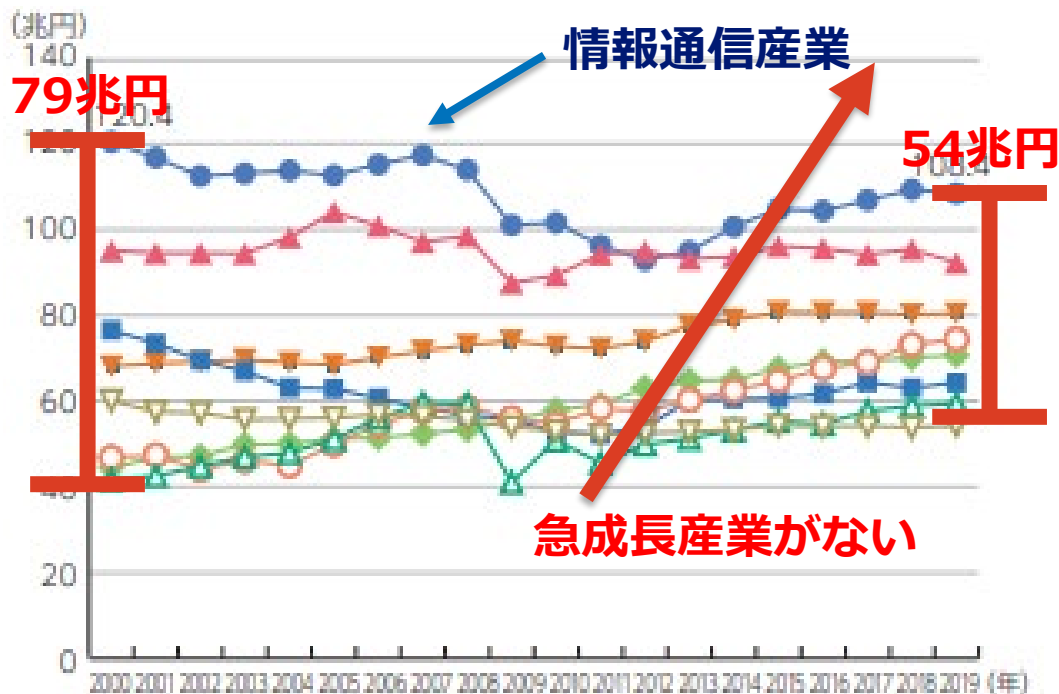


国内およびICT産業の経済規模の推移



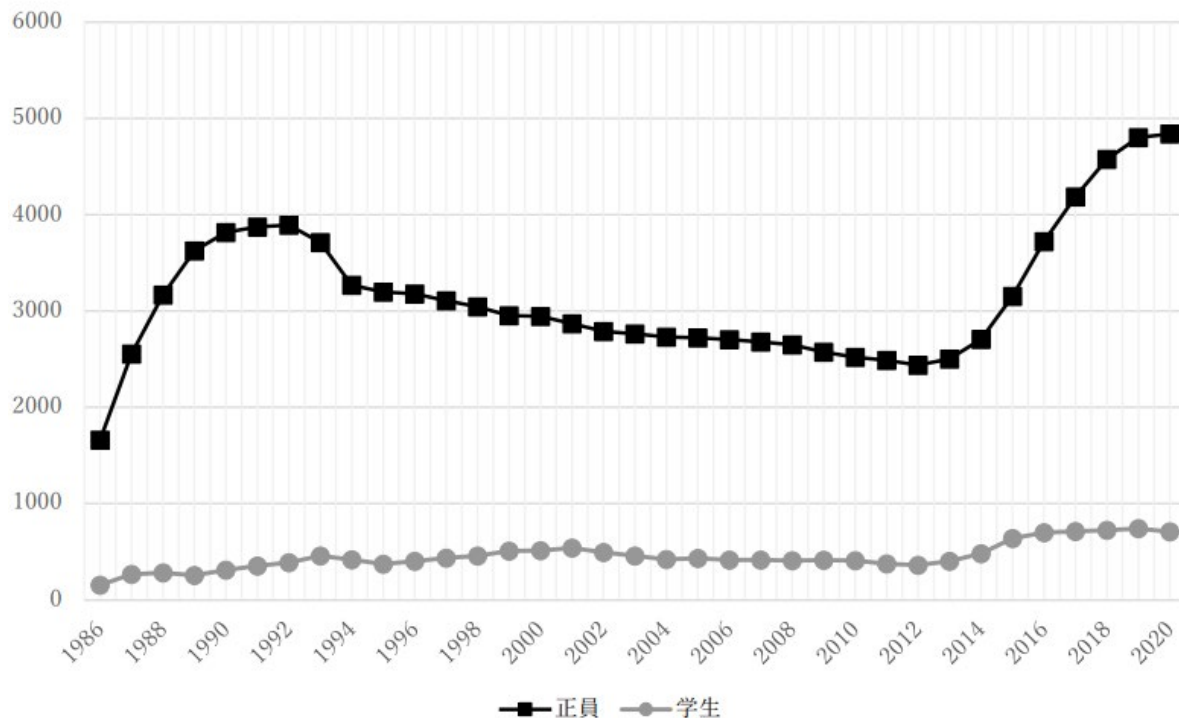
※実質国内生産額は、2015年価格で実質化したもの。

主な産業の国内生産額（2019年）



国内生産額の推移（名目）

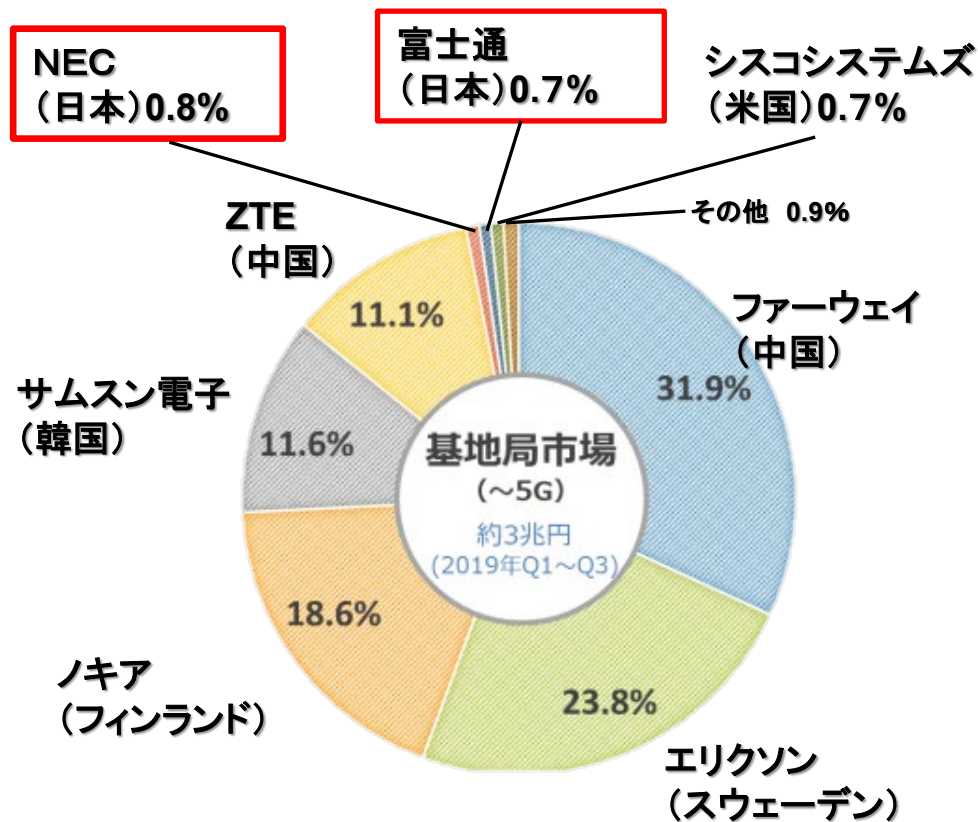
人工知能学会の会員数



出典: 人工知能学会ホームページ

<https://www.ai-gakkai.or.jp/pdf/general-meeting/no36.pdf>

通信インフラ市場における日本の国際競争力 EIC



上位5社で
基地局シェアの
97%

日本企業は
1.5%

次世代の通信システムとは？

新たな社会インフラとしての6G

チャレンジャーの理論

限界打破のイノベーション

通信システムとしてのXG

3G

4G

5G

5G+

勝者の理論

6G

- 海外主要学会への採録により研究成果が測られる風潮
 - 2013年「研究大学強化促進事業」
→**TOP10%論文数**を評価指標に導入
 - 2014 年「ス ーパーグローバル大学創成支援事業」
→**論文の被引用状況**、論文の国際共著状況を評価指数に導入
 - 2019年度からの国立大学の運営費交付金配分
→共通指標による分配を開始、**TOP10%論文数**が評価指数に導入

Bibliometrics

論文数・引用数に基づく指標

- Journal Impact Factor
- h-index



権威ある学術誌が優位

普及するかは不透明ながらも新しい指標

Altmetrics

ソーシャルメディアを活用した指標

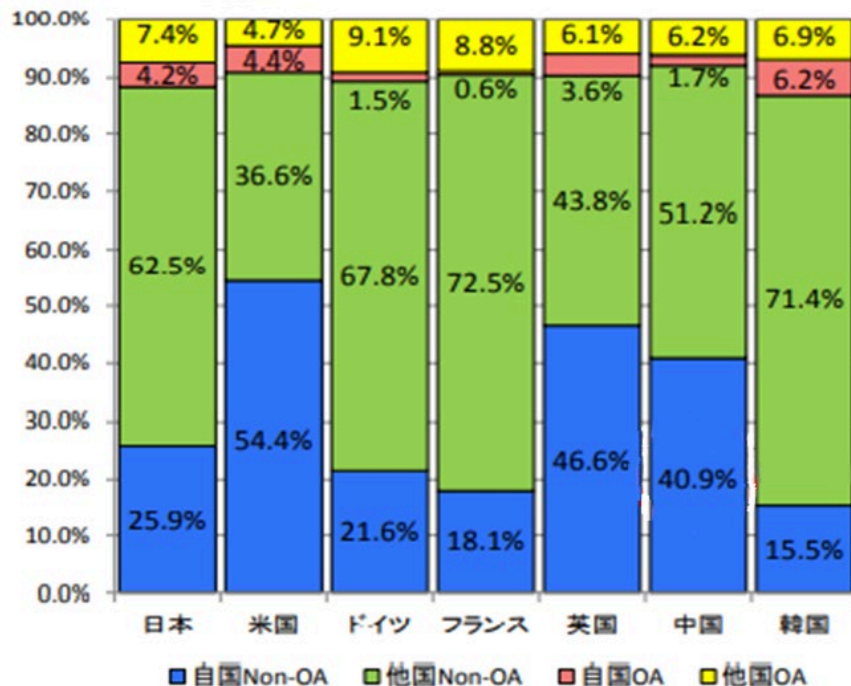
- Altmetric.com



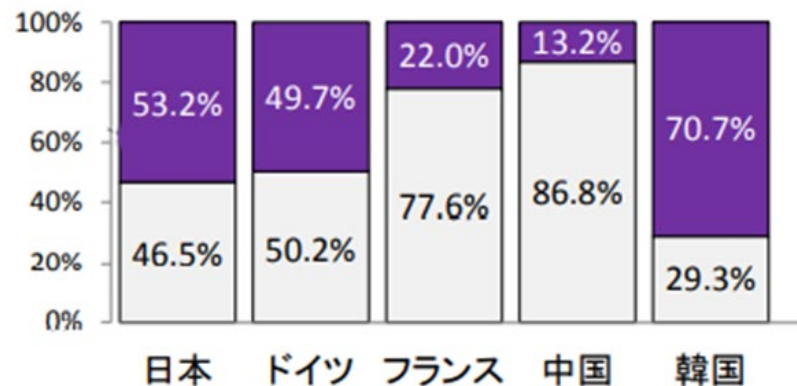
英語が優位

世界のジャーナルの言語

各国のジャーナル投稿先比率



自国ジャーナルでの利用言語 (母国語・白-英語・紫)



- 各国で母国語の投稿文化は多少存在
 - 中国では3割以上
- 日本には研究会原稿もある

出典: https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/afieldfile/2017/03/08/1382861_01.pdf

電子情報通信学会の発展に向けて

■ 産学官の連携強化

■ 企業イニシアティブ委員会の設立

- 企業から見た学会の魅力の検証、学会の貢献の見える化

■ 学会のグローバル価値の向上

■ 翻訳プラットフォーム検討プロジェクト

- 言語の壁を乗り越える技術革新（母国語での参加）

■ 新たな会員制度

■ アソシエイトメンバー制度の検討

- 研究者以外も会員に加え、社会に開かれた学会を目指す

企業イニシアティブ委員会の設立



- 企業イニシアティブ活動は、企業目線で社会課題を解決するテーマの分科会を立ち上げ、革新的手法を“産学官”により創造する場
- 特定の専門領域の枠を超えた議論により新たなビジネスチャンスを創造する場
- ジュニア会員、学生員にも参加の機会を提供、人材育成促進のための議論も歓迎



☐ 企業イニシアティブ活動は、企業目線で社会課題を解決するテーマの分科会を立ち上げ、革新的手法を“産学官”により創造する場です。

☐ 特定の専門領域の枠を超えた議論により新たなビジネスチャンスを創造する場です。

☐ ジュニア会員、学生員にも参加の機会を提供、人材育成促進のための議論も歓迎します。

テーマ募集



企業イニシアティブ活動

問合せ先：（一社）電子情報通信学会
企業イニシアティブ委員会
service@ieice.org



企業イニシアティブ活動に
参加しませんか？



- テーマを企業自らが提案し、テーマごとに分科会を立ち上げる
- 1. テーマ公募（委員会から企業へ）
- 2. 趣意書を提出（企業）
- 3. 趣意書を公開し会員より意見募集（委員会から会員へ）
- 4. 審査（委員会）
- 5. 諾否の報告（委員会から理事会、企業、会員へ）

■ 対象テーマ

1. **持続可能な企業活動**を通して**社会課題の解決**を目指すテーマ
2. **産業を世界規模に成長**させる新技術の**標準化・認証・検証**に関するテーマ
3. **新事業領域を創出**する**ビジネスインキュベーション**に関するテーマ

■ 基準

- 実現性、革新・独創性、影響・波及力、国際性、その他アピール事項

- 海外学会が英語一択の現状に対して，各国母国語選択は，多様性の観点で本会グローバル化の差異化要素になる
- 日本語で執筆，プレゼンした内容が多言語に翻訳され，海外学会会員が本会にアクセスする機会増加を目指す

ミッション

(Mission)

世界の「言葉の壁」をなくす ～「逐次翻訳」から「同時通訳」へ進化、社会実装の更なる進展～

ビジョン

(Vision)

1 グローバルで自由な交流の実現

様々な会話を高精度に翻訳できる多言語翻訳技術の高度化と社会実装の更なる進展により、世界の「言葉の壁」をなくし、世界中の誰もが自由に交流する社会を我が国の技術によって実現する。

2 ビジネス力の強化と真の共生社会の実現

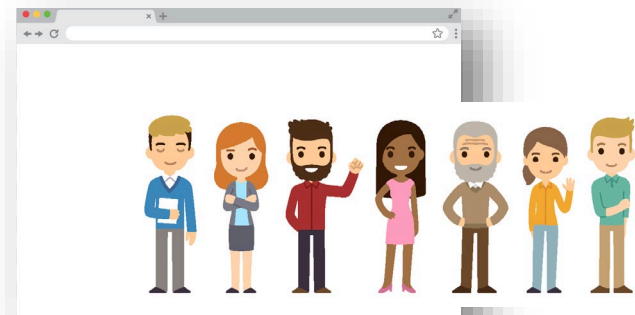
AIによる多言語翻訳技術の高度化や重点対応言語の拡大により、国際会議やビジネス等の議論の場面におけるAI同時通訳の活用を可能とし、企業のビジネスチャンスの拡大や海外連携の促進等を通じて、産業の活性化や市場の拡大を図るとともに、地方も含む日本全国で今後も増加が見込まれる訪日・在留外国人との交流や生活の場における「言葉の壁」の解消を図る。

3 日本のプレゼンス向上

2025年の日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けて、パビリオンにおける出展者と来場者との多言語リアルタイム対話や講演会場における多言語同時通訳を実現するなど、我が国の革新的多言語翻訳技術を世界に先駆けてフル活用することにより、世界から集う方々に「おもてなし」を提供し、国内外での経済・社会活動において日本の価値と魅力を高める。

(案)専門用語訳作り, 論文&学会誌の翻訳

IEICEメンバによる
専門用語の公式訳語作り



専門用語の
対訳辞書

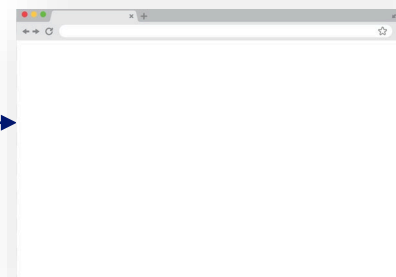
IEICE原稿の翻訳サービス

翻訳サーバー



IEICE
Webサーバー

論文・学会誌
DB



- 本会の活動の裾野を広げ、学会内外の広汎な連携活動を推進
- アソシエイトメンバー検討案
 - 研究者に限定せず本会の活動に関りを持った方々を対象
 - 一般向けコンテンツを無料で提供
 - 各種イベントへの参加を呼び掛け

- 限界打破のイノベーション
 - 未曾有の危機の予測と回避、社会課題の解決
- 本学を取り巻く状況
 - 会員数の推移、情報通信産業の状況、主要海外学会重視の傾向
- 企業イニシアティブ委員会の設立
 - 国民が研究開発成果の利便性を享受できるような社会実装
- 翻訳プラットフォーム検討プロジェクト
 - 母国語で参加できるなど新しい学会のスタイル

演説要旨

- 当初50名で発足した電信電話の研究会→800名を超え学会設立に至る
- 電信電話は産業ばかりで研究要素が不足
 - 欧米の技術を利用するばかり
- **欧米との開きが大きい**
 - 国民・国も研究に理解がなく、研究費も僅か、遊びとされている
 - 研究も改良（発明考案改良）が多く、世界的発明が殆どない
- 学会の課題
 - **世界に発信していないので、欧米の人の注目を惹かない**
 - 発明考案の研究が本質的に少ない（発表機会が少ないことが理由か？）
- **世界への発信と発明考案の創出**に力を入れたい